



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 122) uniwish49号
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2026年1月)
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
Facebook <http://www.x.gd/SJIJA>



キャサリン・ラッセル ユニセフ事務局長 ユニセフハウスを訪問

【2025年9月18日東京発】

2025年8月22日、ユニセフ事務局長のキャサリン・ラッセルが、ユニセフハウスを訪問しました。今回の来日は、横浜で開催された「第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)」への参加に合わせたものです。事務局長は、日本ユニセフ協会会長高須幸雄との懇談を通じて「日本ユニセフ協会は、ユニセフの世界的な活動の礎です。皆様は子どもの命を助けるための重要なパートナーです。」と感謝を述べられました。



©日本ユニセフ協会/2025
日本ユニセフ協会会長 高須幸雄(左)と、
ユニセフ事務局長 キャサリン・ラッセル

【2025年11月 高須幸雄会長のメッセージ】

現在、世界では、過去数十年間で最も多くの紛争が続き、自然災害は猛威を増し、コレラやはしかの大規模な流行も急増するなど、子ども達がかつてないほどの命の脅威に直面しています。救命支援の拡大が一刻も早く求められにも拘らず、国際社会による途上国への援助予算はむしろ縮小しつつあるのが現状です。ユニセフはこうした厳しい状況が子どもたちに及ぼす影響を少しでも減らし、紛争地や被災地、貧困地域の幼い命を救うことを最優先に子どもたちへの必要不可欠な支援活動を継続できるよう力を尽くしています。

ユニセフ、ガザでの教育支援拡大を発表 33万6,000人の学習とメンタルヘルスをサポート 「すべての子どもに日常と尊厳を、そして未来への道筋を」

【2026年1月27日ジュネーブ発】

「Back to Learning (バック・トゥ・ラーニング) ~学びに戻ろう」

ユニセフは、今、ガザ地区で、私たちが「Back to Learning (バック・トゥ・ラーニング) ~学びに戻ろう」と呼ぶ世界最大級の教育支援活動を拡大する準備を進めています。対象は、33万6,000人の子どもたちです。

すべての子どもができるだけ早く安全な学習環境に戻るよう努めています。ユニセフは現在、ガザ全域で100以上の学習スペースを支援しています。



© UNICEF/UNI935364/UNICEF State of Palestine
ユニセフが設置した、ガザ地区デルバラハの仮設学習センター (パレスチナ、2026年1月26日撮影)



© UNICEF/UNI926393/Eleyan
ガザ地区デルバラハの仮設学習センターに通う子どもたち。(パレスチナ、2026年1月8日撮影)

ウクライナ、かつてない厳冬 戦火と極寒の下で暮らす子どもたち ユニセフ代表は、居住地域とインフラへの攻撃停止求める

【2026年1月16日ジュネーブ発】

氷点下の気温の中、暖房・電気・水道のない日々

私たちが皆、懸念していたウクライナの冬の厳しい状況が、今現実のものとなっています。厳しい氷点下の気温の中、重要なエネルギーや水道の供給システムを破壊する激しい攻撃が続いています。

子どもたちとその家族は、“生き延びるための生活”を常に強いられています。気温マイナス18度という寒さの中、暖房のない高層マンションでの生活は、絶え間ない攻撃から身を守り、極寒の気温を凌ぐことにかかっています。

ユニセフはこれらのテント内に心理社会的支援ができる資材も設置しました。提供した資材には、子どもたちが遊びリラックスできるゲームやおもちゃもあり、子どもと大人の双方が高まる不安に対処できるようにしています。



© UNICEF/UNI928179/Filippov
厳しい寒さが続くキウで、暖房付きの移動式テントの中でねんご遊びをする3歳のアリーナちゃん。各テントには子ども用のおもちゃなども置かれている (ウクライナ、2026年1月11日撮影)

2025年度 佐賀県ユニセフ協会 活動の実績

★佐賀県ユニセフの活動は、大きく2つです。主に皆様に直接に支援をしていただく『募金活動』と、ユニセフの理解を広げるための『広報・啓発活動』です。佐賀県ユニセフ協会を支援してくださる皆様に、昨年度の『募金総額』と『ユニセフ教室』等の実施報告をいたします。

★募金活動は、様々なイベント会場での募金活動や年末の「ユニセフハンド・イン・ハンド」街頭募金、学校募金などで支援していただいたものです。その中には「ユニセフを支援する『母子草』」さんからの使用済み切手・インクカートリッジ、書き損じはがきなどの収益 **¥ 260,719円**も募金として含まれています。

募金活動



● 2025年度 佐賀県ユニセフ協会を通して本部へ送金された
年間募金総額 **¥ 7,179,586 円**、ご支援に心より感謝します。

総計 **¥7,179,586 円の内訳** (自:2025年1月1日 至:2025年12月31日)

* 通常募金	¥ 876,802円	* 支援ギフト	¥ 20,000円
* ミャンマー地震緊急募金	¥ 1,756,876円	* 東ティモール指定募	¥ 944,471円
* ウクライナ緊急支援募	¥ 273,720円	* ガザ人道危機緊急募	¥ 203,492円
* 自然災害緊急支援	¥ 742,200円		
* 第47回「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」募金			¥ 2,362,025円

「母子草」に2025年度、沢山の切手や書き損じはがき等をいただいた団体。

- ・ JA佐賀県女性組織様
- ・ 佐賀県南部郵便局長会様
- ・ 高等学校家庭科クラブ様
- ・ 佐賀県地域婦人連絡協議会様
- ・ 諫早市社会福祉協議会様
- ・ 佐賀市立図書館様

中学生・高校生による 使用済み切手整理ボランティア



切手が絵にもなるんだよ。



使用済み切手も整理すれば募金になるよ。!



(佐賀市青少年センター)

他の学校の人達との交流もできて、楽しいなあ。!

広報活動・ユニセフ教室や講話など

★広報活動については、小・中学校、高等学校、一般団体の方から、ユニセフ教室や講話の要請がありました。テーマは「子どもの権利条約」や「持続可能な開発目標SDGs」などが多く、世界の子どもたちが直面している問題について伝え、自分たちに何ができるかを考えてもらいました。ユニセフ教室や講話（ミニ講話）などを県内外で61回行いました。

《ユニセフ教室や講話の講師派遣、募金贈呈時のミニ講話、事務所訪問などの実績》

講師派遣(回)						協定地域組織への訪問(回)					イベント	合計
校種	小学校	中学校	高校	大学一般	小計	小学校	中学校	高校	大学一般	小計		
回数	8	1	3	6	18回	2	2	0	15	19回	24回	61回
人数	517人	120人	115人	73人	825人	2人	7人	0人	26人	35人	1284人	2144人

* イベントや募金贈呈式での講話などを含む(ミニ研修など)。大学生は一般に含む。

* 事務所訪問は、調べ学習・活動前の事前学習・情報収集・活動相談等を含む。

* イベントは、ユニセフのつどい、SDGs絵画展、SAGA国際フェスタ、有田陶器市やガタリンピック、ハンド・イン・ハンド募金活動等



★9/11 牛津小学校5年生
「SDGs学習」



★6/25 神埼市ドリームパーク
「もったいないを考えよう」
～牛乳パックで船を作ろう～



★4/26 日本語学校 弘堂国際学園
学生さんが事務所訪問
(ミャンマー地震募金贈呈)



★12/11 有明西小学校「人権集会」

2025年度 特色ある活動の紹介

その1

『2025 ユニセフのつどい』 “みんなで知ろう！子どもの権利、フォーラム in SAGA”

佐賀県ユニセフ協会では、2024年度から「子どもの権利」について考える『子どもサミット』や「子どもの権利条約ってなあに？」等のイベントや研修会を実施してきました。今回はその流れで、大谷先生を講師に迎え、講演とパネルディスカッションという形態で、子どもの権利を多角的に議論するフォーラムを開催しました。広く、また、多くの皆様が「子どもの権利」について考えるきっかけになればと考え企画をしました。共催の佐賀新聞社にも広報をしていただき、感謝申し上げます。

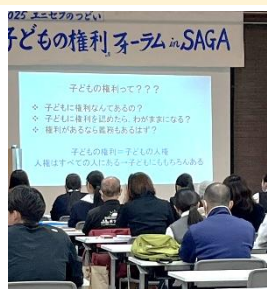
- ◆11月9日（日）13:30～15:30
- ◆佐賀新聞社5階 大会議室
- ◆講師：大谷美紀子 氏
- ◆参加者：中・高・大学生、教諭、PTA保護者、行政の方や市議の方、関心のある大人の方まで77名の参加がありました。

◎【内容】

- ・初めに大谷先生が基調講演「子どもの権利条約」の歴史について話されました。1989年に国連が子どもは弱くて守るべき対象から権利を主張する主体に認識が変化したと解説をされました。「子どもの意見を聞かれる権利」や「大人が子どもの意見を聞くこと」の重要性を強調されました。
- ・中高生や大学生、教師や保護者など12人のパネラーからは、「スマホの問題」や「子どもの権利」と「大人の主張」と衝突した場合はどうしたらよいかなど、日常生活で課題と思っていることを自由に話し合うことができました。
- ・子どもの権利について多角的で充実した議論となり、1時間30分があつという間に過ぎ、参加者の多くが、パネラーと大谷先生との対話で「子どもの権利」について大きな学びとなったと感想を述べられました。
- ・最後に大谷先生の「人権に対して義務は国や自治体にある」という言葉が心に残ったという感想もありました。



◆講師：大谷美紀子 氏
*大谷先生は、弁護士・国連子どもの権利委員会元委員長、日本ユニセフ協会理事。
*専門は、人権問題で、今は「人権」についての講話をライフワークとされ、世界の様々な国に出向き、活躍をされています。



【講演】



【パネルディスカッション】



【中・高・大学生の参加】



【フォーラム会場】

その2

“日本ユニセフ協会主催 2025年度 秋季 ユニセフ キャラバン隊、4年ぶりに佐賀県を訪問。知事への表敬訪問や学校での「ユニセフ教室」実施。”



【県庁ウェルカムボード】



【山口知事と早水専務理事】



【砥川小学校 授業】



【先生方の研修】

10月30日（木）～10月31日（金）日本ユニセフ協会から、早水専務理事、学校事業部金子部長、秋場さんの3名が、佐賀県へ「2025秋季ユニセフ キャラバン キャンペーン」で訪問をされました。佐賀県には、4年ぶり11回目の訪問となりました。

1日目は、山口知事や甲斐教育長への表敬訪問及び協力のお礼や「メッセージ交換」と、短い時間でしたが情報交換などもされました。

2日目は、学校事業部の先生方による先生方への「ユニセフ研修」、砥川小学校、牛津中学校での「ユニセフ教室」も行われました。世界の子供たちの生活の一部、水がめ運びやマラリアに罹らないための蚊帳の体験なども行い、盛り上がりしました。



【牛津中学校 授業】



【絵画展の様子】

【50校からの応募数】

校 種	応募数
小学校	230点
中学校	80点
合 計	310点

★ 第9回 SDGs絵で伝えよう『わたしたちの地球』を守る絵画展

* 日時: 10月24日(金)～10月30日(木) 9:00～17:00

【表彰式 10月26日(日) 10:30～11:50】

* 会場: 佐賀県庁 1階 県民ホール

* 主催: 佐賀県ユニセフ協会 * 共催: 佐賀新聞社

【入賞者と家族で
記念撮影】

◆佐賀県ユニセフ協会主催の「絵で伝えよう!『わたしたちの地球』を守る」絵画展も今年で9回目を迎えました。

この絵画展開催のきっかけは、2015年9月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える首脳が参加して、2030年までの新たな目標となるSDGs＝「持続可能な開発目標」が採択されたことに始まります。SDGsは、今ある世界の様々な問題を解決し「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展するにはどうしたら良いだろう?」と皆で考えた17の目標です。

◆近年は、行政や企業・団体でも解決のための取り組みが工夫がされ、また、学校でも身近なところから自分達にきくことを考え、行動していこうとする教育が展開されています。

◆周知は進んできましたが、成果が出ていない目標もあります。そんな中でも佐賀県内の小・中学校の児童・生徒の皆さんから310点もの『私たちの地球を守る』ためのメッセージが届きました。



【表彰式の様子】



【特別賞受賞者 及び 主催者との集合写真 2025. 10. 26】



《二次展》
「佐賀リハビリテーション病院」で開催

1. 日本ユニセフ協会会長賞

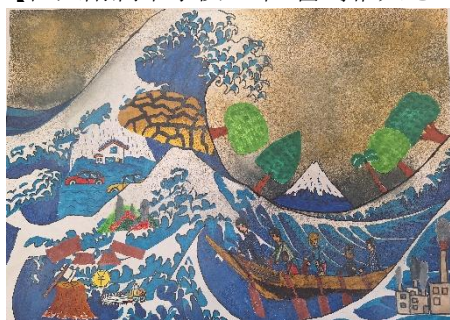
【佐大附属中学校 1年 富崎權人さん】

2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【巨勢小学校 6年 山田蔵之助さん】

3. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【浜玉中学校 2年 江口 萌衣さん】



4. 佐賀新聞社賞

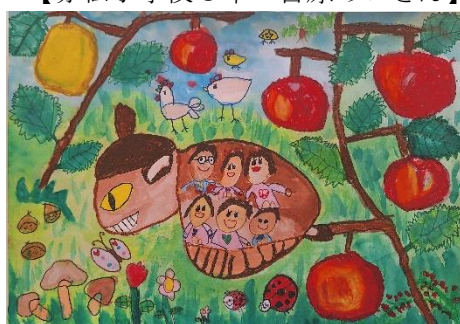
【西与賀小学校 2年 古野航大さん】

5. 佐賀新聞社賞

【赤松小学校 3年 吉原めいさん】

6. 佐賀新聞社賞

【大詫間小学校 4年 西村夏美さん】



Hand in Hand

第47回 (2025年)
ハンド・イン・ハンド募金
すべての子どもたちに生きる希望を!



ハンド・イン・ハンドとは、政治、宗教などに関係なく、「手に手をとって」世界の子どもたちのしあわせと明るい未来を実現させるために、ユニセフの保健、水と衛生、栄養、教育、緊急援助等の事業への支援を通し、「子どもの権利条約」がすべての子どもが守られるよう、一人一人がボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。



11月～12月は、ハンド・イン・ハンド募金月間
誰でも参加できるボランティア活動です!

11/29 (土)
～12/21 (日)
協力、ありがとう!

Paddington Bear™
© Paddington and Company Ltd 2013
Licensed by Copyrights Asia



「第47回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド」 テーマ : 『すべての子どもたちに生きる希望を』

【趣旨】 子どもの権利条約には「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」の4つの原則のうち、今回は「生命、生存及び発達に対する権利」をテーマとします。

これは全ての子どもの命が守られ、持って生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されているという原則です。この趣旨をご理解のうえ、ぜひ活動へのご支援、協力をお願いします。

大型店舗や駅前広場などで街頭募金活動に取り組みました。(11回実施)

●ハンド・イン・ハンドの募金総額 ￥2,362,025 円

- ★(募金金額内訳) ◆募金箱設置の店舗様などからの募金.....¥ 149,001円
◆小・中学校、高等学校、専門学校様からの募金..¥ 197,902円
◆企業・会社、団体、個人様等からの募金.....¥ 1,612,447 円
◆ハンド・イン・ハンド街頭募金活動.....¥ 402,675円

★(ハンド・イン・ハンドの協力者数内訳)

- ◆協力店舗・事業所数.....36 店舗及び事業所等
◆街頭募金協力学校やボーイスカウトの協力者..のべ13校+3ボーイスカウト+3ファミリー
⇒のべ231人
◆企業・会社、団体、学校、個人様.....3会社+3団体+6学校+18個人

*募金をしてくださった皆様
*街頭募金活動に参加してくださった皆様
*募金箱を置いてくださった店舗様
ありがとうございます
ごさいました



【11/29 ゆめタウン佐賀店】



【12/7 イオン佐賀大和店】



【12/14 モラージュ佐賀店】



【12/14 フレスポ鳥栖店】



【12/20 佐賀玉屋】



【12/20 ゆめマート】



【12/20 佐賀駅前広場】



【12/21 ララベル鹿島店】



○ 9月2日(火) 佐賀清和中学校文化祭にて13:00~14:00

「ユニセフチャリティーバザー」実施

テーマ: 子ども達に優しい地球を残そう

ユニセフからもスタッフ応援



○ 9月11日(木) 小城市立牛津小学校「ユニセフ教室」

13:30~14:15 5年生 78人

テーマ: 「SDG s 学習」

~SDG s と世界の子ども達~



○ 9月20日(土) 日本ユニセフ協会 九州協定地域組織交流会

11:00~15:30

熊本市国際交流会館

<内容>卓話「アフリカの子ども、日本の子ども」

各地域組織活動の紹介

意見交換

○ 9月30日(火) 第9回 SDG s 絵画展 応募作品 310点の審査会

審査員: 井上信宏先生、森和幸先生

<佐賀市立図書館 多目的室>

○ 10月5日(火) 2025年 国際フェスタ in 嬉野

11:00~16:00 新嬉野駅前広場

<ユニセフ協会出展内容>

*「子どもの権利条約ってなあに」広報パネル

*SDG s 広報…輪投げゲーム、缶バッジづくり

*バルーンアートづくり

○ 10月8日(水) 鍋島小学校「ハートフル委員会」募金贈呈 13:00~13:20

*全校児童に放送などで呼びかけて募金活動実施

*5・6年生の委員会の皆さんから贈呈 ¥15,353円

*「募金の行方」のミニ講話実施

<鍋島小学校校長室>



○ 10月24日(金)~30日(木) 第9回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展

9:00~17:00 <佐賀県庁 県民ホール>

【詳細はP4に掲載】

*10月26日(日) 表彰式&SDG s ミニ研修



○ 10月30日(木)~31日(金) 2025年 秋季ユニセフ・キャラバン・キャンペーン 佐賀訪問

【佐賀県訪問】30日 ①佐賀県教育長 表敬訪問 メッセージ交換 <県庁>

②佐賀県知事 表敬訪問 メッセージ交換 <県庁>

③ユニセフ研修会(教職員他) <芦刈健康福祉センター>

【ユニセフ教室】31日①砥川小学校 全校児童 107人

②牛津中学校 全校生徒 252人 【詳細はP3に掲載】



○ 11月7日(金) 佐賀県立佐賀商業高等学校 全校生徒向け講演会参加 13:40~15:30

内容: 講演「ウクライナ戦火に生きる人々」

ワークショップ授業参観 (グローバルビジネス科2年生)

講師: 玉本英子 氏 (アジアプレス)



○ 11月9日(日) 「みんなで知ろう 子どもの権利」フォーラム in SAGA 13:30~15:30

(1) 基調講演: 「子どもの権利条約」

【詳細はP3に掲載】

講師: 大谷美紀子氏 (弁護士、日本ユニセフ協会理事)

(2) 12名のパネラーと大谷先生の対談形式のフォーラム

パネラー: 中学生・高校生・大学生・教師・保護者など

<佐賀新聞社5階 大会議室>



○ 11月27日(木) 柳川市立矢ヶ部小学校 「ハンド・イン・ハンド 事前学習」

*11月29日(土) 10:30~11:30 ゆめタウン佐賀店での募金活動に向けて

自分が募金活動で呼びかけたい言葉を書きました

*テーマ: 「すべての子どもに生きる権利を」

*児童 5名 教師数名



- 11月29日（土）～12月21日（日）第47回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 募金活動
 ＊佐賀県内の大型店舗や駅前などで街頭募金を実施
 ＊11ヶ所で実施（ゆめタウン佐賀店、イオン大和店、モラージュ佐賀店
 鹿島ララベル店、フレスポ鳥栖店など）
 ＊ボランティア 合計 205人 募金総額 ￥ 301,900円
 【詳細はP5に掲載】



- 12月11日（木）白石町立有明西小学校 人権教室「ユニセフ教室」8：30～8：50
 全校児童 117人 <体育館>
 テーマ：「子どもの権利と世界の子ども達」



- 12月23日（火）日本語学校 弘堂国際学園&CODO観光専門学校 募金贈呈 ￥15,000円
 代表者：ネパール、ミャンマー、中国からの留学生6人、
 引率の先生2人
 ミニ研修：ユニセフと留学生の母国の状況について



団体賛助会員様、個人の賛助会員様
 ご支援ありがとうございます。



◆ 佐賀県登録の賛助会員様は、佐賀県ユニセフ協会の運営を支える大きな柱です。
**賛助会員会費の50%が、佐賀県ユニセフ協会の運営仮受金となります。また、賛助会費は
 寄付金控除(40%)の対象になります。**今後も賛助会員拡大のために様々な形で広報をしてい
 きたいと思います。賛助会員の皆様、ご支援ありがとうございます。

《佐賀県ユニセフ協会の支援者の数》

- ◆ 一般賛助会員様 (1口5,000円)
 学生賛助会員様 (1口2,000円)
 団体賛助会員様 (1口100,000円)

年度	団体会員	一般会員	学生会員	会員数合計	会費総計
2025 年度	6	155	16	177	¥1,679,000

団体賛助会員 様

(医)智仁会 佐賀リハビリ
 テーション病院

(有) 吉原医設

木村情報技術 株式会社

Nスタイル ノグチ株式会
 社

医療法人 ひらまつ病院

株式会社戸上電機製作所



ご支援
 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様、(株)田口電機工業様、母子草様、コープさが生活協同組合様、佐賀県建築士協会様、
 佐賀市文化会館様、レストラン志乃空港店様、佐賀ギター音楽院様、アルタ高木瀬店様、TSUTAYA鍋島店様、東洋館
 様、えんぴつ館様、恵比寿鍼灸整骨院様、進税理士事務所様、アルタ開成店様、ホテルニューオータニ佐賀様、サウ
 ンド・スピリッツ木原慶吾様、れすとらん志乃県庁店様、浄土真宗本願寺派佐賀教区様、
 イエローハット医大通り店様、三瀬そば様、ふくしま薬局通小路店様、菖蒲ご膳様、(株)北島マルボーロ様 みねまつ整
 骨院様、矢山クリニック様、医療法人輔仁会内野産婦人科様、最所法律事務所様、イエローハットモンテカルロ太陽本
 庄店&医大通り店様、ようどう館佐賀校様、ようどう館大和校様、川崎自工様、手打ちそばうどん夢心様、天山カントリー
 クラブ北コース様、医療法人北士会北川眼科様、北川歯科様、佐賀NOK様、(税)西村会計様、ヘアー&フェイスドゥ
 ース様、村岡屋駅南本店様、村岡屋高伝寺様、村岡屋卸本町店様、いっせい麺処様、H&M EXCEL W.E.N.S様、
 EXCELアムール店様、麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科様、グランデはがくれ様、平尾建築コ
 ンサルタント事務所様、川副子ども太鼓様、佐賀NOK様

佐賀新聞社様、大塚製薬佐賀工場様、佐賀市役所こども家庭課様、循誘公民館様、基里地区まちづくり協議会様、
 佐賀市立図書館様、鳥栖北地区まちづくり協議会様、鳥栖中学校様、すぎの子文庫様、佐賀県民協働課様、ようどう館
 大和校様、ようどう館佐賀校様、サンテ溝上病院様、有田町立大山小学校PTA様、佐賀県高等学校家庭科クラブ様、
 伊万里実業高等学校様、西九州ニチレキ株式会社様、第一生命労働組合様、伊万里市社会福祉協議会様、佐賀大
 学医学部研究棟様、

佐賀県立佐賀北高等学校様、佐賀市立鍋島小学校様、唐津市立佐志小学校様、鳥栖市立田代中学校様、佐賀市
 立赤松小学校様、佐賀県立鳥栖工業高等学校様、鳥栖市立鳥栖北小学校様、武雄市立御船が丘小学校様、
 (順不同：2025年9月1日～2026年1月31日)

※ 個人の皆さま方からたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄での
 ご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。

募金や使用済切手、使用済インクカートリッジなど
 のご支援、ありがとうございます。



unwish の仲間たち!

『幸せの黄色いレシートキャンペーン』で ユニセフを支える仲間たち - 佐賀市 -



【毎月11日、イエローレシートの支援を呼び掛けるメンバー】

イオン『幸せの黄色いレシートキャンペーン』
に取り組んで20年!

◆ 黄色いレシートキャンペーンは、毎月11日に発行される黄色いレシートを地域のボランティア団体に寄付する取り組みです。

イオンでは、2001年8月にジャスコ株式会社からイオン株式会社へと社名変更したことを機に、毎月11日を「イオンデー」と制定、企業理念の道しるべである“日々のいのちとくらしを「夢のある未来へ」という「イオン宣言」を地域社会に具現化すべく「環境」と「地域還元」をテーマに、全従業員が地域への貢献活動を行う日として、「イオン黄色いレシートキャンペーン」を展開されています。

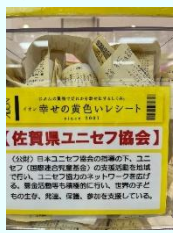
このキャンペーンは、お客様が受け取った黄色いレシートを店内の専用BOXに投函すると合計金額の1%相当の品物がイオンから各団体に寄贈されるものです。地域の活性化に貢献されています。

◆佐賀県ユニセフ協会では、約20年前から登録をして担当のスタッフが、キャンペーンに参加しています。

ユニセフでは、キャンペーンで「世界の子ども達の現状」や、「支援の内容」などと呼び掛け、支援に繋がるように努めています。また、イオン様からの寄贈品としては、イベントで使用するキャンピングテーブルやイーゼルなどをいただきました。活動に大いに役立っています。



【ギフトカード贈呈式】



【イエローレシートBOX】

キャンペーンの思い

私はユニセフ活動をしているので、黄色いレシートで世界の子どもたちの命を救う、という仕組みにとっても感動しました。20年続けていますが、休まないで続け、少しでも人の為になりたいと思います。

お客様に呼びかけする事が、大好きです。それは、気持ちが伝わる時です。小さいお子様からお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんが足を止めて 黄色いレシートを入れてくださいます。そして、頑張っって言っていただく時、なみだが出ます。



川崎さん

このキャンペーンのネーミングはいいですね。昔の映画「幸せの黄色いハンカチ」を思い出します。青空に翻る黄色いハンカチが幸せのサインであるように、善意のこもった一枚一枚の黄色いレシートが、世界の子どもたちの幸せに少しでもつながればいいな、そんな思いで活動に参加しています。大音響を出せるのは元気な証拠。これからも息長く続けていきたいものです。



石井さん

キャンペーンでは他の団体様と一緒にになりますが、その時は「レシートをどうぞあちらに入れてください」とお願いします。譲り合いながら活動が出来ることも楽しいです。また、私達の今の4人組が助け合って続けていける事が嬉しいです。



服部さん

初めは、声を出してお願いをするのが恥ずかしかったけど、今は「ユニセフ活動、世界の貧困で困っている子ども達へ」と言えるようになった。続けて行くことが楽しい。

この活動は正直言って肉体的に厳しいです。立ちっぱなしであること、大声を張り上げるなどはかなり体力を使います。一方、大声を出したあとのスッキリ感とレシートを寄付して下さったお客様の爽やかな表情には心が癒されます。これがこの活動の醍醐味かなと感じています。



佐藤さん

実際の活動の様子



【7.11 レシートBOXの前で】



【2.11マスコットと一緒に】



【イオン佐賀大和店駐車場周辺の除草作業にも参加】